SEKISUI HOUSE

News Release

2014年12月22日

各 位

積水ハウス株式会社
代表取締役社長: 阿 部　俊 則
本社:大阪市北区大淀中1-1-88

宮城県色麻町と東北工場の、官民連携での地域防災への取り組み
「第3回国連防災世界会議」スタディツアーに選定

積水ハウス株式会社が、宮城県色麻町と官民連携で取り組む、共助による災害に強い“まち”を目指す取り組みが、2015年3月に開催される「第3回国連防災世界会議」(主催:国際連合、日程:2015年3月14日(土)～18日(水))の関連事業として実施されるスタディツアー(被災地公式視察)の視察先に選定されました。

スタディツアーでは、色麻町の「災害に強い情報連携システム」や、積水ハウス東北工場が構築する災害時にもエネルギーを確保し官民で活用できる「スマートエネルギーシステム」を紹介するほか、減災・防災のための住宅防災技術等、災害に強い“まち”を目指した取り組みを紹介します。

「第3回国連防災世界会議」は、世界各国の代表が国際的な防災戦略を議論する会議です。国連加盟国、国際機関、NGO等の首脳、閣僚級を含む政府関係者など5,000人以上が参加予定です。また、会期中に東北被災四県内の複数会場で開催される関連事業(フォーラム、シンポジウム、セミナー、展示、スタディツアー等)には延べ4万人以上の参加が想定されています。

【スタディツアーについて】

＜ツアー名＞　官民連携による地域防災への取組みと先進の住宅防災技術
～共助による災害に強い“まち”を目指して～

＜場　所＞　積水ハウス株式会社　東北工場(宮城県加美郡色麻町大原８)

＜概　要＞　町の指定避難所とし活用される東北工場で、官民で活用できるエネルギーを確保するスマートエネルギーシステムや先進の住宅防災技術を展示、説明

＜特　長＞

① 色麻町全体の高速無線通信「地域WiMAX」を活用した「災害に強い情報連携システム」

② 災害時にもエネルギーを確保し、災害対策本部や避難所にエネルギーを供給する「スマートエネルギーシステム」

③「防災協定」に基づき東北工場に設置される指定避難所、防災備蓄。町だけでなく、住民や地域組織との連携による災害に強いコミュニティ

④ 迅速にお客様や地域社会に安全・安心を提供するサポート体制、先進の住宅防災技術

積水ハウス株式会社は、2013年9月に色麻町と「防災協定」を締結、2014年5月には、お客様や地域社会への安全・安心提供を目的に生産工場の防災力を高める「防災未来工場化計画」を発表しました。先進の官民連携モデル構築に向けた具体的取り組みとして、10月19日には合同で防災訓練を実施しました。災害時にもエネルギーを確保できる「スマートエネルギーシステム」の構築も進めています。

今後も町、住民、地域組織との防災連携を一層深め、地域全体の防災力向上に貢献し、先進的な官民連携モデル構築を目指します。

本件に関するお問合せ
積水ハウス株式会社　広報部
(大阪) TEL06-6440-3021　(東京) TEL03-5575-1740

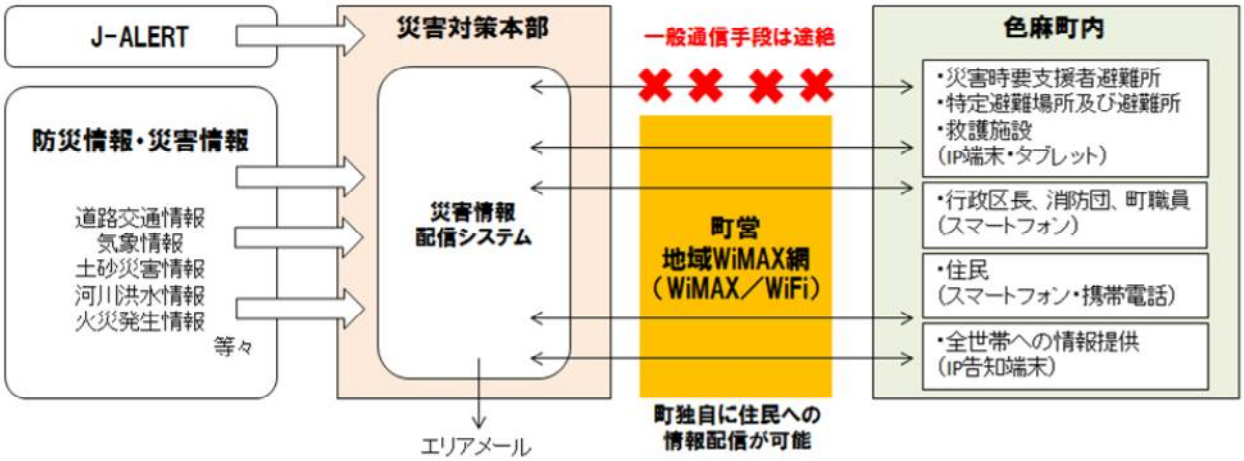
SLOW & SMART
ゆっくり生きてゆく、住まいの先進技術。

ECO FIRST

① 高速無線通信「地域WiMAX」を活用した「災害に強い情報連携システム」（色麻町の取り組み）

色麻町は、全国瞬時警報システム（J－ALERT）をはじめ、国や宮城県からの多様な防災・災害情報を町に集約して、住民や公共施設へ一括配信を行なうため、「地域WiMAX（ワイマックス）」と呼ばれる高速大容量のデータ通信機能を活用し、東日本大震災時のように万が一光回線など一般の通信手段が途絶えても、町独自に住民への情報配信が可能となる「災害に強い情報連携システム」を整備しています。
10月19日に実施した「色麻町総合防災訓練」でも被災状況等確認に活用、その有効性を確認しました。
スタディツアーではこの「災害に強い情報連携システム」について説明します。

■「災害に強い情報連携システム」概念図



② 災害時にもエネルギーを確保し、災害対策本部や避難所にエネルギーを供給する「スマートエネルギーシステム」（積水ハウス　東北工場の取り組み）

積水ハウス東北工場では、「スマートエネルギーシステム」構築により、契約電力を700kw（一般家庭の約233世帯分）下げることができるため、平時には地域の電力ピークカットに貢献します。また、エネルギー管理システム（FEMS）の導入により、工場内主要設備のエネルギー利用状況を「見える化」し、従業員の省エネ意識を一層高め、さらなるエネルギー使用量削減につなげていきます。

災害時には、蓄電池・発電機および太陽光発電の3電源から、事務所棟と避難所として活用する建屋に電力を供給します。電力が供給できるため、水、ガスの供給も可能になります。
10月19日に実施した「色麻町総合防災訓練」では、町の災害対策本部を東北工場内に設置し、「スマートエネルギーシステム」により確保したエネルギーを活用することを想定し、訓練を実施しました。さらに、プラグインハイブリッド車は、災害時の電力供給源として、また初動対応時の移動手段として利用します。これらの取り組みが、災害時の初動を迅速にし、オーナー様や地域住民へのいち早いサポートを可能にする、平常時はエコで、災害時はタフな工場を実現します。

スタディツアーでは、太陽光発電システム、大型蓄電池、ガスエンジン発電機、プラグインハイブリッド自動車、エネルギー管理システムにより構成する「スマートエネルギーシステム」について展示、説明します。

■　スマートエネルギーシステム　概念図

③「防災協定」に基づき東北工場に設置される指定避難所、防災備蓄。町だけでなく、住民や地域組織との連携による災害に強いコミュニティ

2013年9月に色麻町と締結した「防災協定」に基づき、事務所棟と「東北・住まいの夢工場」(約3,180㎡)を災害発生時の避難所として活用します。また、250人が寝泊まりできる避難スペースと7日間の防災備蓄を確保するとともに、住民や地域組織とも連携して実践的な防災訓練を定期的、計画的に開催し、平時はもとより災害時にも助け合える強いコミュニティをつくることを目指します。10月19日には19機関2,000人以上の町民が参加した「色麻町総合防災訓練」を実施しました。

スタディツアーでは、「東北・住まいの夢工場」の一部を避難所として設えるとともに、防災備蓄についても展示、説明します。

伊藤　色麻町長(右)と弊社社長(左)による「防災協定」調印式(2013年9月)

250人が7日間生活する避難所設置訓練を実施(2014年10月)

オーナー様、被災者、避難者用の防災備蓄を工場内に分散して確保

④ 迅速にお客様や地域社会に安全・安心を提供するサポート体制や、先進の住宅防災技術

当社は創立以来、地震大国、台風大国と呼ばれる日本における自然災害に備え、企業理念の根本哲学「人間愛」に基づく「お客様第一」の考えで、生命と生活を守ることができる災害に強い住まいづくりに取り組み続けてきました。災害発生時には、お客様や地域社会への迅速なサポートに努めてきました。

スタディツアーでは、積水ハウス独自の「住宅防災」の考え方に基づく、お客様や地域社会への迅速なサポートを実現する体制を紹介します。また、大災害が発生した際に生活空間を確保し自立した生活を実現する住まいの先進技術や、災害時にも自立した生活を送ることができる、3電池(太陽電池・燃料電池・蓄電池)自動連携の防災スマートハウス「グリーンファースト ハイブリッド」、防災の観点でコミュニティづくりに取り組む防災スマートタウンの取り組み等を展示、説明します。「住宅防災」は、お客様そして地域社会のために、「人に対して」「企業として」「住まいに対して」の3つの活動で総合的な取り組みを進める、積水ハウス独自の考え方です。

■ スタディツアーでご紹介予定の先進の住宅防災技術(一部)

世界初の3電池自動連動システムを搭載し、災害時にもエネルギー自立が可能な防災スマートハウス「グリーンファースト　ハイブリッド」

地震動エネルギーを熱エネルギーに変換、吸収し、地震の揺れによる建物の変形を約1/2に低減。繰り返しの地震にも強い制震システム「シーカス」

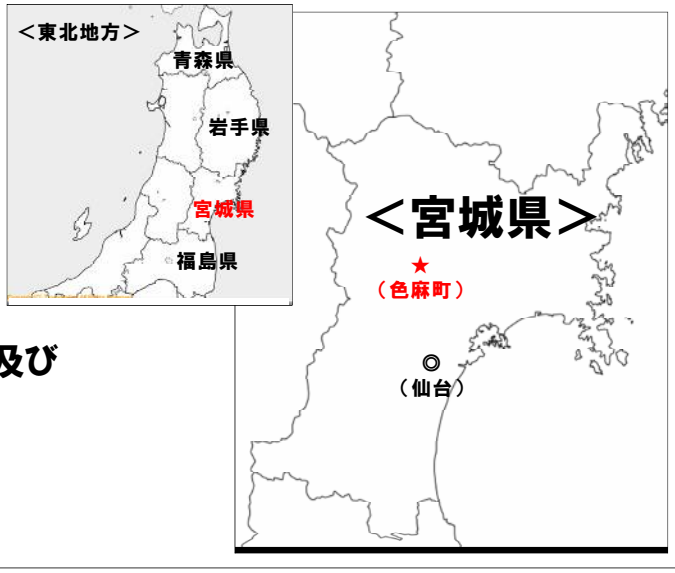
「耐震住宅」「免震住宅」の構造や技術をご紹介。地震のシミュレーションも体験可能。

■　災害発生時、全国のオーナー様をいち早くサポートする顧客データ管理システムと自立復旧拠点

災害発生時、復旧拠点となる生産工場に支援物資を集約。被災地域のオーナー様、地域の皆様にお届け

■スタディツアー開催場所

積水ハウス株式会社　東北工場

住所：宮城県加美郡色麻町大原8
（車で、仙台より約45分）

※参加対象は、同国際会議参加者及び
プレス登録の方